

第11回 通信政策特別委員会 参考資料

# 第10回会合における 事後質問への回答

2023年12月22日  
事務局

# 目次

✓ NTTに対する質問	3
-------------	---

第10回会合における事後質問等への回答

## NTTへの質問に対する回答

## GAFAMとの協調・連携と競争について

**問** 国際競争力強化に関して、競合他社から「GAFAM対抗しても意味がない（レイヤが違う）」といった趣旨の発言があったと記憶しているが、NTTとしてどのように考えているか。私の記憶している限りでは、NTTとして、明示的には、研究開発の国際展開において、「GAFAM対抗する」とはこれまで一言も述べていなかったと理解しており、NTTとGAFAMとは、競争する部分と、協調・連携する部分の両面があると考えられるが、もしそのような理解が正しいとすると、競争する部分と、協調・連携する部分の具体例をお示しいただきたい（特に協調・連携の具体例）。

### (回答)

- ・ ご指摘の通り、GAFAMとは協調・連携と競争の両面があると考えています。
- ・ 当社は、「IOWN構想」の推進・実現により、超低消費電力、高速・広帯域、超低遅延化を達成することで、ゲームチェンジを図り、世界に先駆けて新たな情報通信インフラを構築していく考えです。
- ・ IOWN構想の実現に向けては、むしろGAFAMと共創していく必要があると考えています。GAFAMを含む世界の様々な産業・企業に光電融合デバイス等をはじめとするIOWNを活用いただくことが重要であり、特に、世界中にサーバやクラウド基盤を持つGAFAMは、IOWNを展開するうえで、重要なパートナーになり得ると考えています。（事実、GAFAMを含むハイパースケーラーは、当社のグローバルをカバーするデータセンターの約60%を占める顧客です。）
- ・ 他方、「競争」領域としては、例えば、GAFAMが日本国内のネットワークレイヤに進出しており、企業の拠点間通信が、従来の通信事業者が提供する閉域網（VPNや専用線等）からGAFAMの提供するクラウドに代替され、通信事業者は顧客からクラウドやインターネットまでのアクセス回線のみを要望されるケースが増加しています。こうした競争領域においては、当社としてもサービスの高度化等を図り、GAFAMに対抗していきたいと考えています。
- ・ その他、端末レイヤやクラウド、コンテンツ等、サービス領域や市場に応じて、当社とGAFAMの関係性（協調・連携/競争）は異なってくる（ケースバイケース）ものであり、引き続き、ユーザーニーズ等に応じて、機動的に事業展開していくことが重要と考えています。